

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会聖火台について

東京 2020 大会の聖火台については、これまで組織委員会・都・国・JOC・JPC等関係者で検討してきた。その内容が12月17日の東京オリンピック・パラリンピック調整会議で了承され、組織委員会が方向性を公表した。

1 公表内容

(1) 製作台数

○式典用と競技期間用の2台を製作する必要

- ・開会式で灯された聖火は、閉会式まで灯し続けなければならない。
- ・聖火台を競技期間中、オリンピックスタジアム内に設置し続けることには物理的課題があり、また、式典用聖火台を、聖火を消すことなくスタジアム外へ移設することは困難である。

(2) 競技期間中の設置場所

○東京臨海部 夢の大橋 有明側を候補地としてIOCへ提案

- ・チケットを持たない多くの人が観覧でき、東京らしく象徴的な場所等を検討し、設置・観覧スペースや警備・運営上の課題について検証した。
- ・この場所は、アーバンスポーツの競技会場が集中する大会を象徴するエリアであり、多くの人の往来が見込め、世界各国のTV放送を通じて大会や東京のイメージアップを期待できる。

(3) レガシー

○式典用聖火台

- ・オリンピックスタジアム又はその周辺に、東京 2020 大会のレガシーとして残されることが自然であり、スポーツ庁及びJSCが、組織委員会と協議しながら適切な場所を検討し、レガシー管理を行う。

○競技期間用聖火台

- ・設置場所又は関連する場所に、東京 2020 大会のレガシーとして残されることが自然であり、都がレガシー管理を行う。

(4) 費用負担

聖火台の具体的検討の進捗に合わせて関係者間で協議を行う。

2 今後の予定

- ・競技期間中の設置場所については、今年度中にIOCの承認を得る予定となっている。
- ・デザイン等の具体的内容は、引き続き組織委員会が中心となり検討を進める。



PRESS RELEASE

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

<Tokyo 2020.NEWS-2018-276>

2018 年 12 月 17 日

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会聖火台について

東京 2020 組織委員会は、本日、東京オリンピック・パラリンピック調整会議において、東京 2020 大会聖火台の製作台数、競技期間中の設置場所等に関して報告し、了承を得ました。詳細は別紙をご覧ください。

今後は、国際オリンピック委員会（IOC）の承認を経て正式決定します。

【本件に関するお問い合わせ】

東京 2020 組織委員会

広報局広報部戦略広報課

電話：03-6631-1949 / FAX：03-3502-8874

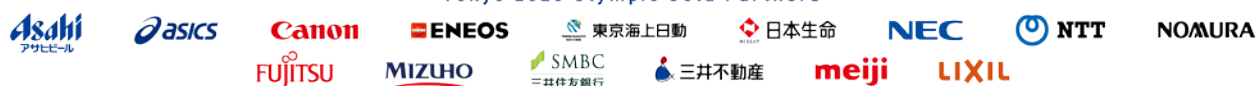
担当：奥村

Email：pressoffice@tokyo2020.jp

The Worldwide Olympic Partners



Tokyo 2020 Olympic Gold Partners



TOKYO 2020

8 月以降、内閣官房、スポーツ庁、東京都、組織委員会、JOC、JPC、JSC による「聖火台の設置場所等検討会議」において、聖火台の製作台数、競技期間中の設置場所、レガシーについて検討を重ね、以下の通り方向性をまとめた。

【製作台数】

式典用と競技期間用の 2 台の聖火台を製作する必要がある。

＜理由＞

- ・ 開会式においてオリンピックスタジアムで聖火台に灯された聖火は、閉会式で納火されるまで灯し続けなければならない。
- ・ 競技期間中、聖火台をオリンピックスタジアム内に設置し続けることには物理的課題があり、また、式典で使用した聖火台を、聖火を消すことなくオリンピックスタジアム外へ移設することは困難であるため。

【競技期間中の設置場所について】

東京臨海部夢の大橋有明側を聖火台設置場所候補地として IOC へ提案するのがよい。

＜検討の経緯＞

- ・ 「チケットを持たない多くの人々が鑑賞できる、東京らしく象徴的な場所」という IOC の与件を満たす場所として、競技会場やライブサイト候補地、都内の観光名所等を検討した。
- ・ さらに設置意義、東京らしさ、会場計画等を考慮し、また設置・観覧スペースや警備・運営上の課題について検証した結果、以下の場所が最適であるとの結論に至った。

＜設置場所＞ 東京臨海部 夢の大橋 有明側 （江東区有明 3 丁目付近）



＜選定理由＞

- ・ 東京臨海部は、東京 2020 大会から採用されたアーバンスポーツの競技会場が集中する、大会を象徴するエリアである。
- ・ チケットを持たない人を含め、多くの人の往来が見込める場所である。
- ・ IBC や MPC に近いこと放送事業者の活用利便性が高く、世界各国の TV 放送を通じて大会や東京のイメージアップを期待できる。

【レガシーについて】

- ・ 式典用聖火台は、開会式・閉会式の会場であり、1964 年大会において聖火台として活用された炬火台も展示されるオリンピックスタジアムまたはその周辺に、2020 年大会のレガシーとして残されることが自然である。今後、スポーツ庁および JSC は、組織委員会と協議しながらデザインや大きさに合わせた適切な場所を検討し、レガシー管理を行う。
- ・ 競技期間用聖火台は、設置場所または関連する場所に、東京 2020 大会のレガシーとして残されることが自然である。開催都市として東京都がレガシー管理する。

【費用負担について】

- ・ 製作費・レガシー化に関する費用負担については、聖火台の具体的検討の進捗に合わせて関係者間で協議を行う。